

グループ 4

## 教育と経済の連携 ～家庭教師のイチコー～

米満和貴 村上 駿 内田 聡  
指導者 藤田力教諭・小室浩之教諭

### 要旨

私たちの目標は地域の子供たちの教育水準の向上で、最終的には海外に進出し世界の子供たちに教育を提供することだ。塾や家庭教師の価格が高いが、多くの人は安く教育を受けたい。そこで私たち一高生がより安い価格で教育サービスを提供しようと考えた。アンケート調査、街頭インタビュー、企業体験プログラムへの参加を通し、外国には大きなビジネスチャンスがあること、教育業には信頼と実績が必要不可欠であることが分かった。また、高校生である私たちが直接教育を施すことは難しいため、教材の販売やオンラインでの教育の方がふさわしいと考えられる。

キーワード: 教育, 経済

## Combination of education and economy ~Private tutor of Ichiko~

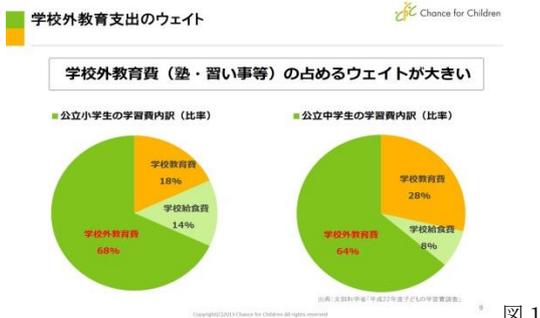
### Abstract

Our goal is to improve children's academic ability by providing education for children locally, and ultimately to go overseas and teach children around the world. Both private tutors and cram schools are expensive, so we want to provide education services at a lower price. Since we are high school students, we can offer these services at a much cheaper price. We gave out a questionnaire to students at a junior high school in Ryugasaki. The result showed that student tutoring activities are not trusted. Next we carried out a survey in Japan, Australia, Singapore and Malaysia. We asked two questions. The first question was "Are you receiving an education other than at school such as private tutors and cram schools?" The second question was "What do you think about high school students being private tutors?" After that, we opened a cram school named "Ichiko Juku" at the Tsuchiura Industrial Fair for two days. We taught Japanese, English and math to children. First, we have to research more about the trust issue. Second, as a result of our questionnaire, we found that there is an opportunity to set up a tutoring business abroad. Since it is difficult for us to educate children abroad directly and we do not have much time to be private tutors to local students, other ways, such as selling text books or offering an online course, seem to be suitable.

Key words: education, economy

## 1. はじめに

現代日本での教育に関する問題として、学校外の教育(ここで言う学校外の教育とは、塾、家庭教師、通信教育(以下学校外教育)などである)にかかる費用が非常に大きいということが挙げられる。文部科学省による平成22年度子どもの学習費調査(図1, 2)では公立小学生、公立中学生の学校外教育の学習費比率が約60%と学校教育の学習比率の約3倍となる。金額にすると小学校が年間206,947円、中学校が年間292,562円である。金銭的に余裕のある家庭ならばこの金額はそこまで負担にならないだろうが、何らかの事情で収入が低い世帯にとってこの金額は大きい。しかし、その中でも学校外教育を受けたい、受けさせたいと思う人々はいるだろう。そこで、私たちが教師として小中学生に教育を施し、他の学校外教育より安い価格で学校外教育を提供しようと考えた。



## 2. 仮説

土浦一高生が家庭教師として活動することにより、以下の利点を生かして、小中学生に勉強を教えることで地域の子供たちの教育水準の向上の手助けが可能なのではないか。そして、この活動により金銭のやり取りを行い、経済活動を行うことができるのではないか。

- 1) 高校生であるためにほかの学校外教育よりも安く教育が提供できる。
- 2) 高校生であるために、比較的小・中学生との距離感が掴みや

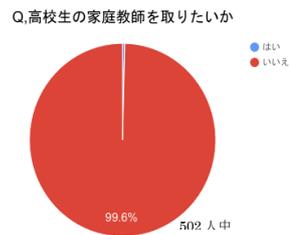
すい。

- 3) 受験を経験して日が浅く、ノウハウが現在の受験に十分通用する。

## 3. 検証の手立て

### ①中学校でのアンケート調査

茨城県竜ヶ崎市中根台中学校で、中学生が、高校生の家庭教師を取りたいかどうかを調べるために、アンケート調査を行った。結果は次のとおりである(図3)。



家庭教師を取りたいと答えた生徒はわずか2人であった。このような結果になった原因として、私たちが家庭教師としての信頼や実績に乏しいということが挙げられる。

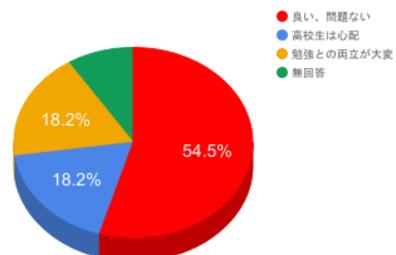
### ②街頭調査

#### (1)日本国内

私たちは家庭教師に対する人々の意識を調べるために、つくばクレオスクエアでアンケート調査を行った。アンケートは主に成人女性を対象に行い、以下の結果となった。(図3, 4)



#### 高校生が家庭教師をやることへの意見



これらの結果より、多くの人が家庭教師は高額だというイメージを持っていて、「散らかっている家に他人を入れたくない」など教師が生徒の家を訪問することに抵抗があることが分かった。しかし、高校生が家庭教師をやることに対しては、半数以上の人賛成した。家を訪問せずに教育を施せるようにすれば需要は増えるのではないかと考える。

## (2) オーストラリア

8月の海外フィールドワークで、私たちはシドニー、タスマニアで学校外教育、特に家庭教師に対する意識を調べるためにアンケート調査を行った。(図6、7)

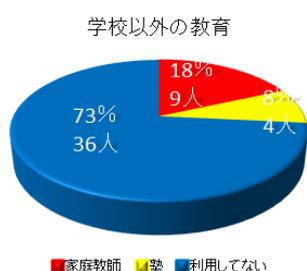


図6

高校生が家庭教師をやることに関して

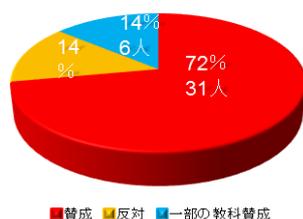


図7

これらの結果より、オーストラリアでは学校外教育があまり普及しておらず、また高校生が家庭教師をやることに7割の人が賛成であることが分かる。また、オーストラリアではYear10(高校1年生)で進学か就職かを選択しなければならないため、進学を選択する人には安価な家庭教師は需要があるように思える。このようなことからビジネスチャンスが十分あると言える。

## (3) シンガポール・マレーシア

同じくシンガポール・マレーシアでもアンケート調査を行った。マレーシアでは一定以上の学力がなくては中学、高校を卒業できないという制度があるので、そのことを加味して、今後の普及を考えていく。

シンガポール・マレーシアでは約半数の人が高校生が家庭教師活動を行うことに対して肯定的な意見を持っていたが、これは裏を返せばおよそ半数は否定的な意見を持っているということで

ある。このことより、シンガポール・マレーシアでは普及が少しばかり困難であると推定できる。理由は主に「信頼できない」からであるという意見が多くあがった。これからの課題として高校生家庭教師がどのように信頼を得るかということを考えなくてはならないと感じた。

## ③土浦産業祭 での出店

私たちは、高校生による家庭教師業を行う前段階として、2016年10月25日～10月26日に土浦産業祭に株式会社土浦一高塾としてブースを出店し、教育活動を行った。

### ○実施内容

- ・テント内で、小中学生を対象(それ以外も可)に一教科50円で勉強を教える。
- ・私たち生徒自身が作成した土浦一高を紹介する本『土浦一高のヒミツ』を一冊50円で販売する。

### ○実施結果

- ・勉強を教えた生徒…6人
- ・『土浦一高のヒミツ』売上冊数…158冊
- ・当期純利益…3395円

## 4. 結論

日本では多くの人が家庭教師は高いというイメージを持っているが、高校生が家庭教師を行うことに関しては大部分が賛成である。ただ、信頼が無いため、誰もとりたいと思わない。オーストラリア、シンガポールでは教育制度上ある一定の学力が必要とされるが、家庭教師は普及していない。

## 5. 考察

まず、日本で高校生が家庭教師を行うことは難しいのではないだろうか。私たち自身が学ぶ身である以上、多忙になってしまうのは当然のことながら、何よりも信頼を得にくいというのが問題である。信頼を得るには実績を出していく以外に方法はないように思われ、それを高校生が行うのは至難の技だろう。しかし、高校生が学習面でのサポートを行うことには多くの人賛成してくれているので、家庭教師以外の方法がいいのではないだろうか。また、海外については需要があることは海外フィールドワークで知ることができた。日本よりも大きなビジネスチャンスがあるだろう。しかし、実際に現地に赴くことはできないのでこちらで

庭教師以外の方法で教育を施すのが妥当だろう。

また、直接教育を施すのは難しいということが今回わかったので、教材や受験指南書といったものを作成し販売するほうが良いのではないかと考える。

<参考文献>

<http://children.publishers.fm/article/1371/> 平成 29 年  
3 月 6 日

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa03/gakus  
huuhi/kekka/k\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/24  
/1364721\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakus<br/>huuhi/kekka/k_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/12/24<br/>/1364721_1_1.pdf) 平成 29 年 3 月 6 日